製品安全データシート

ゲルマニウム (Ge) 製 窓・レンズ等光学部品

SDS 番号 IRS-007

作成日：2019年7月19日

改定日：2020年10月29日

はじめに

下記の有害性情報は、ゲルマニウムに関する一般安全情報に基づいて作成されています。完成品固体の通常の取扱いにおいては、危険性・毒性は考えにくいことではありますが、吸入・誤飲しない、強酸・強酸化剤との接触を避けるなど、注意が必要な点もございますので、ご一読ください。

1.化学物質等製品及び会社情報

製品名：ゲルマニウム (Ge) 製 窓・レンズ等光学部品

会社名：株式会社アイ・アール・システム

〒206-0041 東京都多摩市愛宕 4-6-20

TEL：042-400-0373 / FAX：042-400-0374

メール：office@irsystem.com

2.危険有害性の要約

GHS 分類

危険性および有害性の各項目は、区分に該当しないまたは分類できない。

・危険有害性情報

粉末・粉塵・ヒュームが発生する場合、吸引しないこと。また誤飲を避けること。

肌や目に刺激を与える可能性があるためこのような条件下では保護具や保護メガネの着用が望ましい。

・注意書き

粉末・粉塵・ヒュームが発生する場合は適切な保護具を使用し、十分な換気・排気を行う。

吸引や誤飲を避け、取扱い後は手を洗うこと。取扱い中の飲食喫煙を避けること。

暴露した時、または気分が悪い時は医師に連絡すること。

3.組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品

化学物質名又は一般名 : ゲルマニウム

別名 : Ge

化学式 : Ge

CAS No. : 7440-56-4

成分及び含有率 : 99.999%以上

4.応急措置

- ・目に入った場合
粉塵が目に入った場合は直ちに流水で最低 15 分間洗い流し、刺激が残る場合は医師の診断を受ける。
 - ・皮膚に付着した場合
触れた部分を水と石鹼を使ってよく洗う。刺激が残る場合は医師の診断を受ける。
 - ・吸入した場合
新鮮な空気の場所に移し、すみやかに医師の診断を受けること。
 - ・飲み込んだ場合
水でよく口の中を洗浄し、すみやかに医師の診断を受けること。
-

5.火災時の措置

- 特有の危険有害性 : 固体では燃焼性はない。
- 特有の消火方法 : 通常の火災と同様の消火方法を取る。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際には、適切な防護衣、空気呼吸器、その他の保護具を着用し、風上から行う。
-

6.漏出時の措置

- ・飛散したものは速やかに掃き集め、密閉できる空容器に回収する。粉塵をまき上げないように注意する。
 - ・処理者は、吸入や、眼・皮膚・衣類に付着しないよう、適切な保護具を着用する。
 - ・環境への放出をさけること。河川等に排出され、環境への影響を起ささないように十分注意すること。
-

7.取扱い及び保管上の注意

- ・粉塵・粉末が皮膚に付着したり、吸入しないよう、必要に応じて適切な保護具を着用する。取扱い時には飲食は避け、取扱い後はよく手を洗う。
 - ・手袋や指サック等の保護具は製品の汚損を避けるためにも着用が望ましい。
 - ・容器は換気のよいところに密閉して保管する。
 - ・強酸化剤、強酸から遠ざけて保管する。
-

8.暴露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度 : 固体の状態においては規定なし。

保護具 : 手の保護具 : ゴム製保護手袋

粉塵が発生する場合は、防塵マスク、保護眼鏡、保護衣など適切な保護具を着用する。

9.物理的及び化学的性質

外観： 銀色の固体	臭い： 無臭
沸点： 2830℃	融点： 937℃
比重： 5.323g/cm ³	溶解度： 水に溶けない
可燃性： 燃焼性はない	蒸気圧： 25℃前後では無視できる

10.安定性および反応性

安定性：通常条件下で安定

反応性：強酸、強酸化剤との接触は避ける

危険有害な分解生成物：通常なし

11.有害性情報

下記の有害性情報はゲルマニウムに関する一般安全情報に基づいて作成されています。固体の通常の手扱いにおいては、危険性・毒性は考えにくいことではありますが、ゲルマニウムに関する有害性のデータは少ないため、特に粉塵や粉末、ヒュームの吸入・誤飲については十分注意してください。

急性毒性： データ無し

皮膚腐食性： なし

皮膚・目刺激性： 粉塵は目や皮膚に刺激を与えることがある

発がん性： データ無し

生殖毒性： データ無し

12.環境影響情報

水性環境有害性 短期（急性）： データ無し

水性環境有害性 長期（慢性）： データ無し

13.廃棄上の注意

各地域の法令に従って処理する。または専門業者に委託し再利用する。

14.輸送上の注意

特に規制はない。輸送に際しては密閉容器に入れ、荷崩れの防止を行う。割れ物として扱う。

15.適用法令

労働安全衛生法：非該当

毒物及び劇物取締法：非該当

消防法：非該当

16.その他の情報

本 SDS の記載内容は、新しい知見に基づき改定されることがあります。

本 SDS の記載内容は、情報提供であり、当該化学物質の取扱い上のいかなる保証をするものではありませんので、製品のお取扱いには十分ご注意ください。

また、注意事項は通常のお取扱いを対象としたものであって、特別な取扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策をお願いいたします。